



Systemwalker Centric Manager



インストールレス型エージェント監視 導入支援ツール 説明書

UNIX/Windows(R)共通

J2X1-7521-01Z0(00)
2010年5月

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Centric Manager のインストールレス型エージェント監視導入支援ツール(以降では、「導入支援ツール」と表記します。)の導入方法、運用方法について説明しています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerを導入された方を対象としています。

また、本書を読む場合、OSやGUIの一般的な操作、およびSSHなどの一般的な知識をご理解の上でお読みください。

本書の表記について

エディションによる固有記事について

本書では、標準仕様である“Systemwalker Centric Manager Standard Edition”の記事と区別するため、エディションによる固有記事に対して以下の記号をタイトル、または本文に付けています。

EE:

“Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition”の固有記事

GEE:

“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition”の固有記事

EE/GEE:

“Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition”、および“Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition”の固有記事

固有記事の範囲は、タイトル、または本文に付いた場合で以下のように異なります。

タイトルに付いている場合

章/節/項などのタイトルに付いている場合、タイトルの説明部分全体が、固有記事であることを示します。この場合、タイトルに対して、オンラインマニュアルの場合は色付けされます。

本文に付いている場合

固有記事全体に対して、オンラインマニュアルの場合は色付けされます。

Windows版とUNIX版の固有記事について

本書は、Windows版、UNIX版共通に記事を掲載しています。Windows版のみの記事、UNIX版のみの記事は、以下のように記号をつけて共通の記事と区別しています。

タイトル【Windows版】

タイトル、小見出しの説明部分全体が、Windows版固有の記事です。

タイトル【UNIX版】

タイトル、小見出しの説明部分全体が、UNIX版固有の記事です。

本文中でWindows版とUNIX版の記載が分かれる場合は、“Windows版の場合は～”“UNIX版の場合は～”のように場合分けして説明しています。

記号について

[]記号

Systemwalker Centric Managerで提供している画面名、メニュー名、および画面項目名をこの記号で囲んでいます。

コマンドで使用する記号

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

記述例

```
[ PARA={ a | b | c | ... } ]
```

記号の意味

| 記号 | 意味 |
|-----|---|
| [] | この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。 |
| { } | この記号で囲まれた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。 |
| — | 省略可能記号“[]”内の項目をすべて省略したときの省略値が、下線で示された項目であることを示します。 |
| | この記号を区切りとして並べられた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。 |
| ... | この記号の直前の項目を繰り返して指定できることを示します。 |

マニュアルの記号について

マニュアルでは以下の記号を使用しています。



注意

特に注意が必要な事項を説明しています。



ポイント

知っておくと便利な情報を説明しています。

略語表記について

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows 7”と表記します。
 - Windows(R) 7 Home Premium
 - Windows(R) 7 Professional
 - Windows(R) 7 Enterprise
 - Windows(R) 7 Ultimate
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 R2”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard without Hyper-V(TM)

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise without Hyper-V(TM)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 Foundation”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 Server Core”、または“Server Core”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) Server Core
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 STD”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 DTC”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 EE”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 STD”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 DTC”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 EE”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 2000”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Datacenter Server operating system

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows NT(R)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 3.51
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 3.51
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) XP”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Vista”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
- Microsoft(R) Windows(R) Millennium Editionを“Windows(R) Me”と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 98 Second Editionを“Windows(R) 98”と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 95 Second Editionを“Windows(R) 95”と表記します。
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 STD(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 DTC(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 EE(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) 2000 Server”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) XP x64”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
- Systemwalker Centric Manager Standard Editionを“SE版”と表記します。
- Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionを“EE版”と表記します。
- Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Editionを“GEE版”と表記します。
- Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”、Global Enterprise Editionを“GEE”と表記します。
- Windows上、Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Windows版”と表記します。
- Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Windows for Itanium版”と表記します。
- Windows Server 2003 STD(x64)/Windows Server 2003 DTC(x64)/Windows Server 2003 EE(x64)に対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Windows x64版”と表記します。
- Solaris(TM) オペレーティングシステムを“Solaris”と表記します。
- Solarisで動作するSystemwalker Centric Managerを“Solaris版 Systemwalker Centric Manager”または“Solaris版”と表記します。

- HP-UX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“HP-UX版Systemwalker Centric Manager”または“HP-UX版”と表記します。
- AIX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“AIX版Systemwalker Centric Manager”または“AIX版”と表記します。
- Linux上、Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Linux版Systemwalker Centric Manager”または“Linux版”と表記します。また、Itaniumに対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Linux for Itanium版”と表記します。
- Linux上、Linux for Intel64に対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Linux版Systemwalker Centric Manager”または“Linux版”と表記します。また、Linux for Intel64に対応したLinux上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Linux for Intel64版”と表記します。
- Solaris、Linux、HP-UX、AIX上で動作するSystemwalker Centric Managerを、“UNIX版Systemwalker Centric Manager”または“UNIX版”と表記します。
- Microsoft(R) SQL Server(TM)を“SQL Server”と表記します。
- Microsoft(R) Visual C++を“Visual C++”と表記します。
- Microsoft(R) Cluster ServerおよびMicrosoft(R) Cluster Serviceを“MSCS”と表記します。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

商標について

Apache、Tomcatは、The Apache Software Foundationの登録商標または商標です。

APC、PowerChuteは、American Power Conversion Corp.の登録商標です。

ARCserveは、米国CA, Inc.の登録商標です。

Citrix、MetaFrameは、Citrix Systems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

HP-UXは、米国Hewlett-Packard社の登録商標です。

IBM、IBMロゴ、AIX、AIX 5L、HACMP、Power、PowerHAは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標です。

Intel、Itaniumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

JP1は、株式会社日立製作所の日本における商標または登録商標です。

LaLaVoiceは、株式会社東芝の商標です。

LANDeskは、米国およびその他の国におけるAvocent Corporationとその子会社の商標または登録商標です。

Laplinkは、米国Laplink Software, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

MC/ServiceGuardは、Hewlett-Packard Companyの製品であり、著作権で保護されています。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mozilla、Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

NEC、SmartVoice、WinShareは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

Netscape、NetscapeのN および操舵輪のロゴは、米国およびその他の国におけるNetscape Communications Corporationの登録商標です。

OpenLinuxは、The SCO Group, Inc.の米国ならびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Oracleは、米国Oracle Corporationの登録商標です。

Palm、Palm OS、HotSyncは、Palm, Inc.の商標または登録商標です。

R/3およびSAPは、SAP AGの登録商標です。

Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SolarisおよびすべてのSolarisに関連する商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。

Sun、SunClusterは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、LiveUpdate、Norton AntiVirusは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Symantec pcAnywhere、Symantec Packager、ColorScale、SpeedSendは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における商標です。

Tcl/Tkは、カリフォルニア大学、Sun Microsystems, Inc.、Scriptics Corporation他が作成したフリーソフトです。

TRENDMICRO、Trend Micro Control Manager、Trend Virus Control System、TVCS、InterScan、ウイルスバスター、INTERSCAN VIRUSWALL、eManagerは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

Turbolinuxおよびターボリナックスは、ターボリナックス株式会社の商標または登録商標です。

UNIXは、米国およびその他の国におけるThe Open Groupの登録商標です。

UXP、Systemwalker、Interstage、Symfowareは、富士通株式会社の登録商標です。

Veritasは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

VirusScanおよびNetShieldは、米国McAfee, Inc.および関連会社の商標または登録商標です。

VMware、VMwareロゴ、Virtual SMP、VMotionはVMware, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ショートメール、iモード、mova、シティフォンは、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ(以下NTTドコモ)の登録商標です。

その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

平成22年5月

| |
|-------------|
| 改版履歴 |
| 平成22年 5月 初版 |

Copyright 1995-2010 FUJITSU LIMITED

All Rights Reserved, Copyright (C) PFU LIMITED 1995-2010

Portions Copyright (C) 1983-1994 Novell, Inc., All Rights Reserved.

目次

| | |
|--|----|
| 第1章 導入支援ツールとは..... | 1 |
| 1.1 概要..... | 1 |
| 1.2 動作環境..... | 1 |
| 第2章 導入支援ツールを使用する..... | 3 |
| 2.1 使用方法..... | 3 |
| 2.1.1 環境構築の流れ..... | 3 |
| 2.1.2 事前準備..... | 4 |
| 2.1.3 SSH公開鍵の作成(監視サーバ側)..... | 8 |
| 2.1.4 SSH公開鍵の設定(監視対象システム側)..... | 10 |
| 2.1.5 SSH接続の確認(監視サーバ側)..... | 13 |
| 2.2 アンインストール..... | 16 |
| 第3章 リファレンス..... | 17 |
| 3.1 mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)..... | 17 |
| 3.2 インストールレス型エージェント監視導入支援コマンドの入力ファイル..... | 21 |
| 3.3 インストールレス型エージェント監視導入支援コマンドの出力ファイル..... | 21 |
| 3.4 mpalssetupで始まるメッセージ..... | 22 |

第1章 導入支援ツールとは

導入支援ツールの概要について説明します。

1.1 概要

導入支援ツールとは、Systemwalker Centric Manager導入後のインストールレス型エージェント監視機能の環境定義 (OSやネットワーク環境の定義)が正しく設定されているかを調べ、不足している環境定義の設定を支援するツールです。

導入時のトラブルを回避するため、事前に導入支援ツールを使用し、環境設定に問題がないかを確認してください。

導入支援ツールでできること

SSH接続でインストールレス型エージェント監視を行うために必要な動作環境のチェックや、SSH公開鍵の作成/設定を行います。

(1) SSH公開鍵の作成 (監視サーバ)

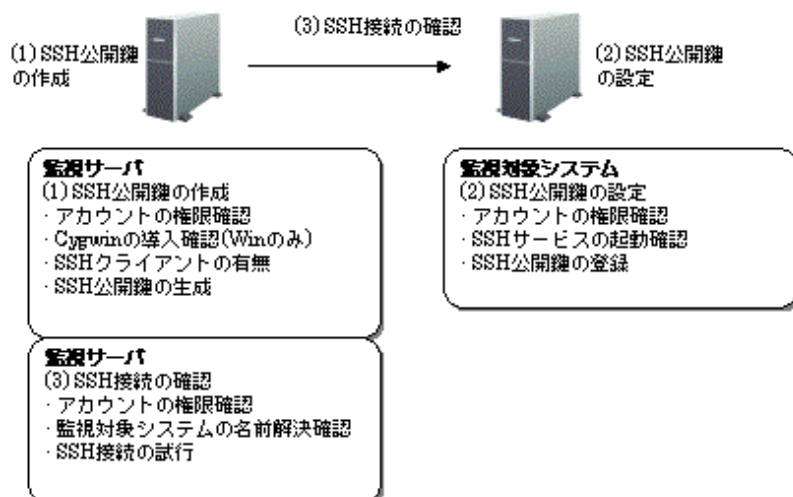
監視サーバにおいて、SSH接続を行うために必要な環境情報を確認し、SSH公開鍵を作成します。

(2) SSH公開鍵の設定 (監視対象システム)

監視対象システムにおいて、SSH接続を行うために必要な環境情報を確認し、監視サーバで作成したSSH公開鍵を設定します。

(3) SSH接続の確認 (監視サーバ)

監視サーバから監視対象システムにSSH接続を試行し、SSH接続が正常に行えることを確認します。



| 用語 | 説明 |
|----------|---|
| 監視サーバ | 監視対象システムに対して監視、操作を行うサーバです。Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバまたは部門管理サーバに該当します。 |
| 監視対象システム | 監視サーバから管理されるシステムです。 |

1.2 動作環境

導入支援ツールの使用時に前提としている動作OSや関連するソフトウェアについて説明します。

動作OS

導入支援ツールがサポートする監視サーバ、監視対象システムの動作OSは以下のとおりです。

- **監視サーバ**

Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバおよび部門管理サーバが動作するOSと同じです。詳細については、“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“動作OS”を参照してください。

- **監視対象システム**

以下に記載するサポート対象外のOSを除き、Systemwalker Centric Managerのインストールレス型エージェントで監視対象としてサポートしているOSと同じです。詳細については、“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“監視できるインストールレス型エージェントのOS”を参照してください。

<サポート対象外の動作OS>

(Windowsの場合)

- Microsoft(R) Windows NT(R) server 4.0

(UNIXの場合)

- TurboLinux 6.1J、7.0J
- OpenLinux(TM) eServer 2.3J、3.1.1J
- Redhat Linux 7.0J、7.2J、9
- Red Hat Linux AS (v.2.1)

関連ソフトウェア

導入支援ツールの使用時に必要となるソフトウェアは以下のとおりです。

- Systemwalker Centric Manager V13.4.0

(Windowsの場合)

- SSH V2.0以上

SSHがインストールされていない環境では、OpenSSH(Cygwin OpenSSH V1.7以上)をインストールしてください。Cygwinをインストール時に、次のパッケージを選択してください。

- openssh
- openssl
- cygrunsrv

Cygwinは、以下の URL からダウンロードすることができます。使用許諾に基づいて使用してください。

<http://cygwin.com/>

(UNIXの場合)

- SSH V2.0以上

Solaris9、Solaris10、Linux(RH5.0)の場合は、OSの標準機能としてインストールされています。SSHがインストールされていない環境では、OpenSSHをインストールしてください。

第2章 導入支援ツールを使用する

導入支援ツールの使用方法について説明します。

導入支援ツールは、導入支援項目の追加により、定期的に更新を行っております。

Systemwalker技術情報ホームページで最新版を公開しています。

導入前には、以下より、最新版の導入支援ツールをダウンロードしてください。

URL: <http://systemwalker.fujitsu.com/jp/man/>

2.1 使用方法

2.1.1 環境構築の流れ

インストールレス型エージェント監視機能を使用してSSH接続による監視を行なう場合の環境構築の流れを以下に記載します。

2.1.2 事前準備



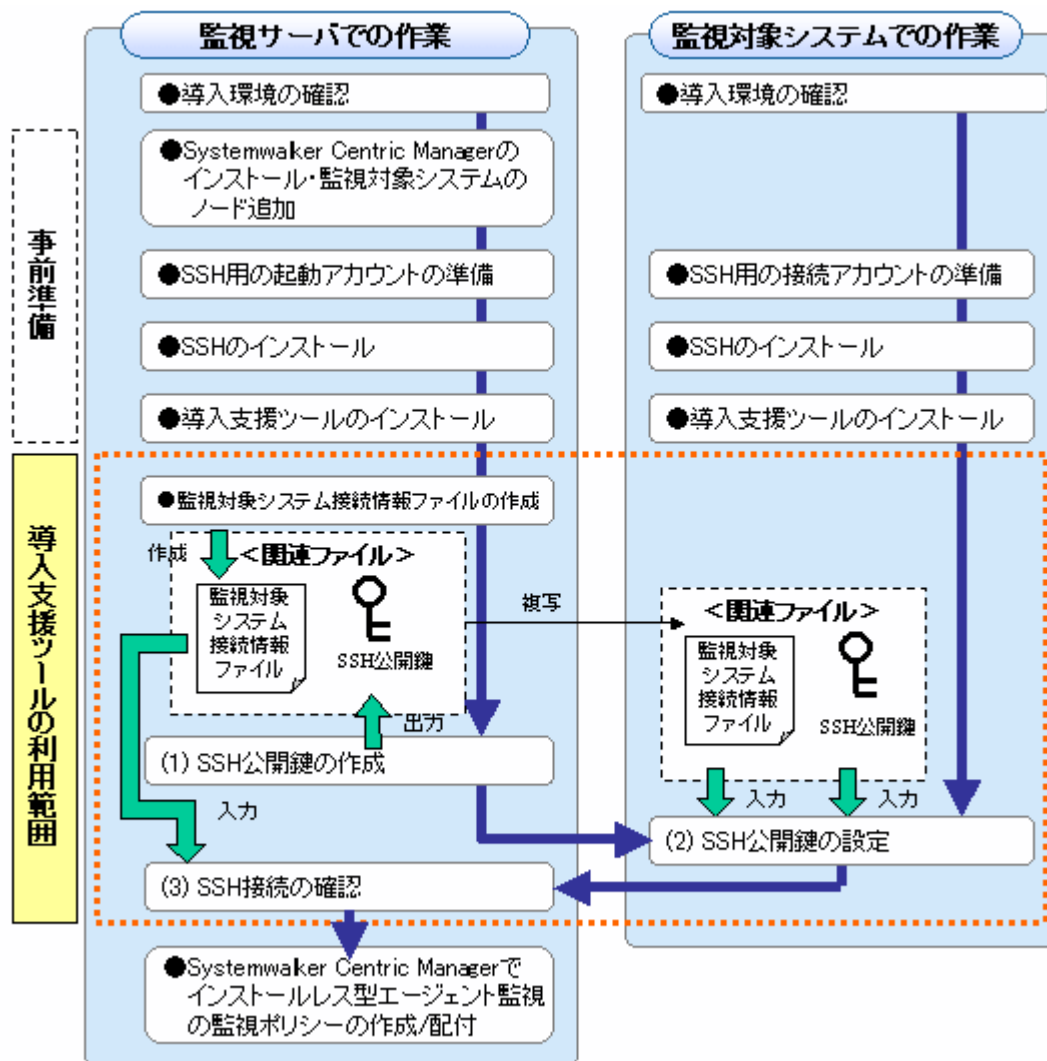
2.1.3 SSH公開鍵の作成(監視サーバ側)



2.1.4 SSH公開鍵の設定(監視対象システム側)



2.1.5 SSH接続の確認(監視サーバ側)



2.1.2 事前準備

導入環境の確認

導入支援ツールを使用するにあたって、以下の情報を設計します。

| 項目 | 内容 |
|--------------|-------------------------------|
| 監視サーバ側の情報 | SSH用の起動アカウントのアカウント名 |
| | SSH用の起動アカウントのグループ名 (UNIXでは不要) |
| 監視対象システム側の情報 | SSH用の接続アカウントのアカウント名 |
| | SSH用の接続アカウントのグループ名 (UNIXでは不要) |
| | ホスト名 |
| | デプロイ先のパス |

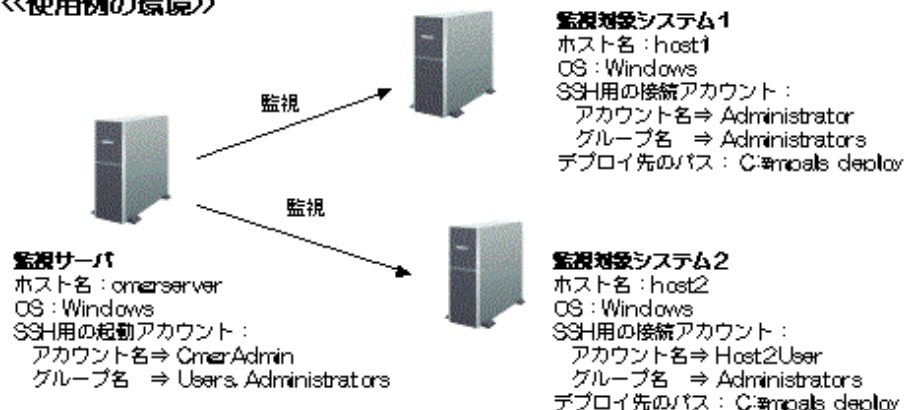
入手した情報から次の設計項目を確認し、システム環境のパラメタ設計を見直してください。

- ・ ホスト名: 256個以内のASCIIコードであること。また半角英数字および"."文字のみを含むこと。
- ・ アカウント名: 64個以内のASCIIコードであること。また半角英数字および"."、"_"文字のみを含むこと。
- ・ デプロイ先のパス: デプロイ先のパス: 64個以内のASCIIコードであること。半角英数字および"."、"_"文字のみを含むこと。ドライブレターを区切る":"やパスの区切り文字"¥", "/"は含んでもよい。

- 本章では、以下のシステム構成を前提環境として使用例を説明します。

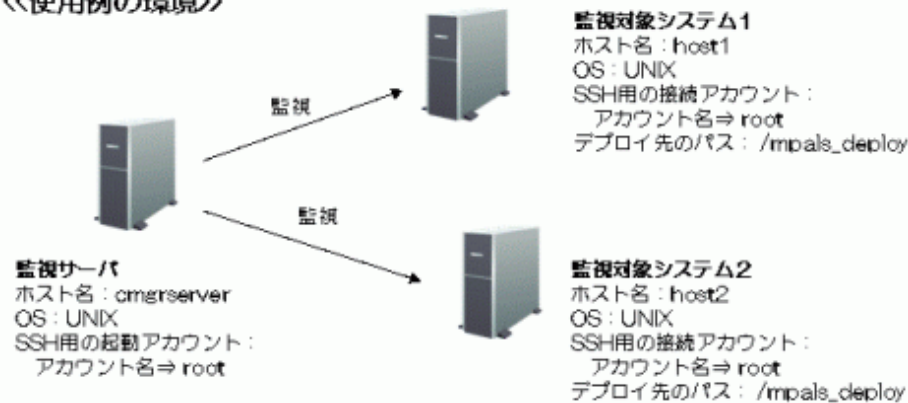
(Windowsの場合)

＜＜使用例の環境＞＞



(UNIXの場合)

＜＜使用例の環境＞＞



Systemwalker Centric Managerのインストール・監視対象システムのノード追加

1. 監視サーバにSystemwalker Centric Managerをインストールします。インストールに関する詳細については、Systemwalker Centric Manager 導入手引書を参照してください。
2. 監視対象システムのノード情報を運用管理サーバに追加します。ノード情報の追加に関する詳細については「Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編」の“監視するノードを登録する”を参照してください。

SSH用の起動アカウントの準備

監視サーバにSSH用の起動アカウントとして利用するアカウントを作成します。適切なアクセス権限をSSH用の起動アカウントに与えるため、次の条件を満たすアカウントを作成してください。

(Windowsの場合)

- アカウント名に半角英数字および"-","_"以外の文字列を含まないこと
- 次のグループに所属していること
 - Administratorsグループ、かつ
 - DmAdminグループ (動作OSがWindows2008以降の場合のみ)

(UNIXの場合)

- アカウント名に半角英数字および"-","_"以外の文字列を含まないこと
- rootアカウントであること

SSH用の接続アカウントの準備

監視対象システムにSSH用の接続アカウントとして利用するアカウントを作成します。適切なアクセス権限をSSH用の接続アカウントに与えるため、次の条件を満たすアカウントを作成してください。

(Windowsの場合)

- アカウント名に半角英数字および"-","_"以外の文字列を含まないこと
- Administratorアカウントであること、もしくは※1
- Administratorsグループに所属していること (※2かつEvent Log Readerグループであること)
※1 デプロイ方式でアプリケーションの監視/性能の監視を行う場合は必要です。
※2 動作OSがWindows Vista/Windows2008以降の場合のみ必要です。

(UNIXの場合)

- アカウント名に半角英数字および"-","_"以外の文字列を含まないこと
- rootアカウントであること

SSHのインストール

(Windowsの場合)

1. 監視サーバと監視対象システムにCygwinをインストールしてください。インストール方法については、Cygwinの提供元が公開するユーザーズガイドを参照してください。Cygwinのインストール時にopenssh、openssl、cygrunsrvパッケージを選択してください。
2. Cygwinをインストールした後に、"Cygwin Bash Shell"のプロンプトで次のコマンドを実行して監視対象システムでSSHサービスを登録してください。

```
$ ssh-host-config -y
```

(実行例)

```
user@host ~
$ ssh-host-config -y
*** Info: Generating /etc/ssh_host_key
*** Info: Generating /etc/ssh_host_rsa_key
*** Info: Generating /etc/ssh_host_dsa_key
*** Info: Creating default /etc/ssh_config file
*** Info: Creating default /etc/sshd_config file
*** Info: Privilege separation is set to yes by default since OpenSSH 3.3.
*** Info: However, this requires a non-privileged account called 'sshd'.
*** Info: For more info on privilege separation read /usr/share/doc/openssh/README.privsep.
*** Query: Should privilege separation be used? (yes/no) yes
*** Info: Note that creating a new user requires that the current account have
*** Info: Administrator privileges. Should this script attempt to create a
*** Query: new local account 'sshd'? (yes/no) yes
```

```

*** Info: Updating /etc/sshd_config file

*** Info: Added ssh to C:\WINDOWS\system32\drivers\services

*** Warning: The following functions require administrator privileges!

*** Query: Do you want to install sshd as a service?

*** Query: (Say "no" if it is already installed as a service) (yes/no) yes

*** Query: Enter the value of CYGWIN for the daemon: []

*** Info: The sshd service has been installed under the LocalSystem

*** Info: account (also known as SYSTEM). To start the service now, call

*** Info: `net start sshd' or `cygrunsrv -S sshd'. Otherwise, it

*** Info: will start automatically after the next reboot.

*** Info: Host configuration finished. Have fun!

user@host ~
$

```

(UNIXの場合)

SSHがインストールされていない環境では、SSHをインストールしてください。インストール方法はOSのドキュメントを参照してください。

導入支援ツールのインストール

- 書き込み可能なディスクに、導入支援ツールをインストール先のディレクトリを作成してください。インストール先のディレクトリには半角英数字および"-","_"以外の文字を含めることはできません。
- Systemwalker技術情報ホームページから、導入支援ツールをダウンロードしてください。
- ダウンロードした導入支援ツールは圧縮されています。インストール先のディレクトリの配下に圧縮ファイルを解凍してください。導入支援ツールを解凍すると、実行元のカレントディレクトリ配下に以下のようなフォルダが作成され、ファイルが格納されます。



- 導入支援ツールを起動するアカウントに、次の環境変数を設定します。

(Windowsの場合)

- 環境変数PATH:<Cygwinのインストール先のディレクトリ>%binを追加します。
- 環境変数TMP: 設定されていない場合、任意の一時フォルダのパスを記入します

(UNIXの場合)

- 環境変数PATH: sshコマンド, ssh-keygenコマンドが格納されたパスを追加します。

2.1.3 SSH公開鍵の作成(監視サーバ側)

監視対象システム接続情報ファイルの準備

1. Systemwalker Centric Managerにおいて、Systemwalkerコンソールの編集モードで監視対象システムのノードを追加します。
2. 監視対象システムのSSH接続アカウントを確認します。
3. 監視対象システム接続情報ファイル(syslist.def)を作成します。

(Windowsの場合)

作成先: 導入支援ツールインストールディレクトリ\mpalssetup\def

(UNIXの場合)

作成先: 導入支援ツールインストールディレクトリ/mpalssetup/def

```
host1,Administrator,C:\mpals_deploy  
host2,Host2User,C:\mpals_deploy
```

監視対象システム接続ファイルの詳細については“3.2 監視対象システム接続情報ファイル”を参照願います。

SSH公開鍵の作成

1. 監視サーバ上にSSH起動アカウントでログインします。
(UNIXの場合)
suコマンドでアカウントを切り替える場合は、“-”をパラメタに指定してください。
2. 導入支援ツールを起動します。
3. インストールレス型エージェント監視導入支援メニューで“1. 監視サーバでのSSH公開鍵の作成”を選択します。
4. インストールレス型エージェント監視導入支援メニューに従い、作業を行います。

(Windowsの場合)

```
C:\mpalssetup\mpalssetup\bin>mpalssetup  
  
////////////////////////////////////  
インストールレス型エージェント監視導入支援メニュー  
////////////////////////////////////  
  
1. 監視サーバでのSSH公開鍵の作成  
2. 監視対象システムでのSSH公開鍵の設定  
3. 監視サーバでのSSH接続確認  
  
メニューを選択してください。(1, 2, 3, q)  
  
-->1  
  
<<アカウントの確認>>  
  
アカウント名 : CmgrAdmin  
  
ローカルグループ名 : Administrators, Users  
  
グローバルグループ名 : なし  
  
このアカウントで公開鍵(SSH2)を作成しますがよろしいですか?(y, n)
```


-->y

<<SSH鍵タイプの選択>>

1. RSA (SSH2)
2. DSA (SSH2)

SSH鍵タイプを入力してください。[Default:1] (1, 2, q)

-->1

<<環境設定の実行結果>>

アカウント名 : CmgrAdmin

ローカルグループ名 : Administrators, Users

グローバルグループ名 : なし

SSH鍵タイプ : RSA (SSH2)

SSH公開鍵の格納ディレクトリの絶対パス : C:\mpalsetup\mpalsetup\ssh\cmgrserver_

id_rsa.pub

監視サーバのSSH環境設定が完了しました。

(UNIXの場合)

//

インストールレス型エージェント監視導入支援メニュー

//

1. 監視サーバでのSSH公開鍵の作成
2. 監視対象システムでのSSH公開鍵の設定
3. 監視サーバでのSSH接続確認

メニューを選択してください。(1, 2, 3, q)

--> 1

<<SSH鍵タイプの選択>>

1. RSA (SSH2)
2. DSA (SSH2)

SSH鍵タイプを入力してください。[Default:1] (1, 2, q)

--> 1

<<環境設定の実行結果>>

アカウント名 : root

SSH鍵タイプ : RSA (SSH2)

```
SSH公開鍵の格納ディレクトリの絶対パス : /mpalssetup/mpalssetup/ssh/cmgrserver_id_rsa.pub
```

監視サーバのSSH環境設定が完了しました。

2.1.4 SSH公開鍵の設定(監視対象システム側)

本章の作業は、監視対象システム毎に実施する必要があります。監視対象システム1(host1)、監視対象システム2(host2)のそれぞれで実施してください。

以下では、監視対象システム1(host1)における使用例を説明します。

監視対象システム接続情報ファイルおよびSSH公開鍵の準備

1. 監視サーバ上で作成した以下のファイルを、監視対象システム1(host1)の格納先ディレクトリに手動で配置します。

- － 監視対象システム接続情報ファイル(syslist.def)

(Windowsの場合)

格納先ディレクトリ: 導入支援ツールインストールディレクトリ¥mpalssetup¥def

(UNIXの場合)

格納先ディレクトリ: 導入支援ツールインストールディレクトリ/mpalssetup/def

- － SSH公開鍵(“ホスト名_id_rsa.pub” または “ホスト名_id_dsa.pub”)

(Windowsの場合)

格納先ディレクトリ: 導入支援ツールインストールディレクトリ¥mpalssetup¥ssh

(UNIXの場合)

格納先ディレクトリ: 導入支援ツールインストールディレクトリ/mpalssetup/ssh

2. 監視対象システム接続情報ファイルが格納されていることを確認します。

(Windowsの場合)

```
C:¥mpalssetup¥mpalssetup>dir /B def
syslist.def
```

(UNIXの場合)

```
# ls def
syslist.def
```

3. SSH公開鍵が格納されていることを確認します。

(Windowsの場合)

```
C:¥mpalssetup¥mpalssetup>dir /B ssh
cmgrserver_id_rsa.pub
```

(UNIXの場合)

```
# ls ssh
cmgrserver_id_rsa.pub
```

SSH公開鍵の設定

1. 監視対象システム1(host1)上にSSH接続アカウントでログインします。
(UNIXの場合)
suコマンドでアカウントを切り替える場合は、"- "をパラメタに指定してください。
2. 導入支援ツールを起動します。
3. インストールレス型エージェント監視導入支援メニューで“2. 監視対象システムでのSSH公開鍵の設定”を選択します。
4. インストールレス型エージェント監視導入支援メニューに従い、作業を行います。

(Windowsの場合)

```
C:\mpalsssetup\mpalsssetup\bin>mpalsssetup

////////////////////////////////////

インストールレス型エージェント監視導入支援メニュー

////////////////////////////////////

1. 監視サーバでのSSH公開鍵の作成
2. 監視対象システムでのSSH公開鍵の設定
3. 監視サーバでのSSH接続確認

メニューを選択してください。(1, 2, 3, q)

-->2

<<監視対象システム接続情報ファイルの指定>>

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : C:\mpalsssetup\mpalsssetup\def\%syslist.def

上記の設定を変更しますか? [Default:n] (y, n, q)

-->n

<<アカウントの確認>>

アカウント名 : Administrator
ローカルグループ名 : Administrators
グローバルグループ名 : なし

Administrator以外のアカウントの場合、デプロイ方式でもアプリケーション監視、サーバ性
能監視の機能は使用できません。

このアカウントで公開鍵(SSH2)を設定しますがよろしいですか? (y, n)

-->y

<<SSH公開鍵格納ファイル(authorized_keys)の絶対パスの指定>>

SSH公開鍵格納ファイルの絶対パス : C:\cygwin\home\Administrator\%ssh\authorized_keys

上記の設定を変更しますか? [Default:n] (y, n, q)

-->n
```

<<SSH公開鍵の格納ディレクトリの指定>>

SSH公開鍵の格納ディレクトリの絶対パス : C:\mpalssetup\mpalssetup\ssh

上記の設定を変更しますか? [Default:n] (y, n, q)

→n

<<環境設定の実行結果>>

アカウント名 : Administrator

ローカルグループ名 : Administrators

グローバルグループ名 : なし

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : C:\mpalssetup\mpalssetup\def\syslist.def

ホスト名 : host1

デプロイ先のパス : C:\mpals_deploy

監視対象システムのSSH環境設定が完了しました。

監視対象システムにデフォルト名(CYGWIN sshd)としてSSHサービスを登録しなかった場合は、SSHサービスの起動状態を確認できずに、“環境設定の実行結果”に次の警告メッセージが表示されます。

<<環境設定の実行結果>>

アカウント名 : Administrator

ローカルグループ名 : Administrators

グローバルグループ名 : なし

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : C:\mpalssetup\mpalssetup\def\syslist.def

ホスト名 : host1

デプロイ先のパス : C:\mpals_deploy

SSHサービスが起動していることを確認してください。

監視対象システムのSSH環境設定が完了しました。

導入支援ツールの動作上の問題はあります。このメッセージが表示された場合は、あらかじめ指定したサービス名のSSHサービスが動作していることを確認し、SSH公開鍵の設定を終えてください。

(UNIXの場合)

////////////////////////////////////

インストールレス型エージェント監視導入支援メニュー

////////////////////////////////////

1. 監視サーバでのSSH公開鍵の作成
2. 監視対象システムでのSSH公開鍵の設定
3. 監視サーバでのSSH接続確認

```

メニューを選択してください。(1, 2, 3, q)

--> 2

<<監視対象システム接続情報ファイルの指定>>

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : /mpalssetup/mpalssetup/def/syslist.def

上記の設定を変更しますか? [Default:n] (y, n, q)

--> n

<<SSH公開鍵格納ファイル(authorized_keys)の絶対パスの指定>>

SSH公開鍵格納ファイルの絶対パス : /.ssh/authorized_keys

上記の設定を変更しますか? [Default:n] (y, n, q)

--> n

<<SSH公開鍵の格納ディレクトリの指定>>

SSH公開鍵の格納ディレクトリの絶対パス : /mpalssetup/mpalssetup/ssh

上記の設定を変更しますか? [Default:n] (y, n, q)

--> n

<<環境設定の実行結果>>

アカウント名 : root

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : /mpalssetup/mpalssetup/def/syslist.def

ホスト名 : host1

デプロイ先のパス : /mpals_deploy

SSHサービスが起動していることを確認してください。

監視対象システムのSSH環境設定が完了しました。

```

2.1.5 SSH接続の確認(監視サーバ側)

監視対象システム接続情報ファイルの準備

“2.1.3 SSH公開鍵の作成(監視サーバ側)”で作成した監視対象システム接続情報ファイル(syslist.def)が格納されていることを確認します。

(Windowsの場合)

格納先: 導入支援ツールインストールディレクトリ¥mpalssetup¥def

(UNIXの場合)

作成先: 導入支援ツールインストールディレクトリ/mpalssetup/def

```

host1, Administrator, C:¥mpals_deploy
host2, Host2User, C:¥mpals_deploy

```

格納されていない場合は、“2.1.3 SSH公開鍵の作成(監視サーバ側)”で作成した監視対象システム接続情報ファイルを格納してください。

SSH接続の確認

1. 監視サーバ上にSSH起動アカウントでログインします。

(UNIXの場合)

suコマンドでアカウントを切り替える場合は、"- "をパラメタに指定してください。

2. 導入支援ツールを起動します。
3. インストールレス型エージェント監視導入支援メニューで“3. 監視サーバでのSSH接続確認”を選択します。
4. インストールレス型エージェント監視導入支援メニューに従い、作業を行います。

(Windowsの場合)

```
C:\mpalsssetup\mpalsssetup\bin>mpalsssetup

//////////////////////////////////////////////////////////////////

インストールレス型エージェント監視導入支援メニュー

//////////////////////////////////////////////////////////////////

1. 監視サーバでのSSH公開鍵の作成
2. 監視対象システムでのSSH公開鍵の設定
3. 監視サーバでのSSH接続確認

メニューを選択してください。(1, 2, 3, q)

-->3

<<アカウントの確認>>

アカウント名 : CmgrAdmin

ローカルグループ名 : Administrators, Users

グローバルグループ名 : なし

このアカウントでSSH接続状況チェックを実行しますがよろしいですか? (y, n)

-->y

<<監視対象システム接続情報ファイルの指定>>

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : C:\mpalsssetup\mpalsssetup\def\%syslist.def

上記の設定を変更しますか? [Default:n] (y, n, q)

-->n

-- SSH接続の応答チェック開始 --

host1, Administrator, 接続成功

host2, Host2User, 接続失敗, ホスト名の名前解決ができません。

-- SSH接続の応答チェック終了 --
```

(UNIXの場合)

```
//////////////////////////////////////////////////////////////////
```

インストールレス型エージェント監視導入支援メニュー

////////////////////////////////////

1. 監視サーバでのSSH公開鍵の作成
2. 監視対象システムでのSSH公開鍵の設定
3. 監視サーバでのSSH接続確認

メニューを選択してください。(1, 2, 3, q)

→ 3

<<監視対象システム接続情報ファイルの指定>>

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : /mpalsetup/mpalsetup/def/syslist.def

上記の設定を変更しますか? [Default:n] (y, n, q)

→ n

-- SSH接続の応答チェック開始 --

host1, root, 接続成功

host2, root, 接続失敗, ホスト名の名前解決できません。

-- SSH接続の応答チェック終了 --

・ 応答チェックが“接続失敗”の場合

“接続失敗”の後ろに表示される詳細メッセージの内容に応じて、以下の対処を実施してください。

— 「ホスト名の名前解決できません。」と表示されている場合

監視対象システム接続情報ファイルに設定しているホスト名のIPアドレス解決ができません。hostsファイル、DNS設定を修正、またはIPアドレスが解決できるホスト名を設定してください。

名前解決できることを確認後、再度SSH接続の確認を実施してください。

— 「監視対象システムに接続できません。」と表示されている場合

失敗の原因として以下が考えられます。失敗の原因を取り除いて、再度SSH接続の確認を実施してください。

- 監視対象システムが電源切断状態または監視対象システム上でSSHサービスが起動していないため。
- 監視サーバと監視対象システムのネットワークが切断状態または、FirewallにおいてSSHで使用するポート(22番)が遮断されているため。
- 導入支援メニューの"1.監視サーバでのSSH公開鍵の作成"および"2.監視対象システムでのSSH公開鍵の設定"を未実施のため。
- 接続先のSSHサーバの公開鍵のフィンガープリントが、以前に接続した際に記憶したものと一致しないため。SSHサーバが置き換わった可能性があります。
- (Windowsのみ) SSH起動アカウントがCygwinに認識されていないため。Cygwin Shellから/etc/passwdの内容にSSH接続アカウントのレコード行が存在することを確認してください。存在しない場合は、以下の手順で/etc/passwdを更新してください。

- 1) Administrator(もしくは他の管理者アカウント)でログインする
- 2) Cygwin Shellを起動する。
- 3) 次のコマンドを実行する。

```
$ mkpasswd -l > /etc/passwd
```

— 「監視対象システムから応答がありません。」と表示されている場合

失敗の原因として以下が考えられます。失敗の原因を取り除いて、再度SSH接続の確認を実施してください。

- 監視対象システムが電源切断状態または監視対象システム上でSSHサービスが起動していない。
- 監視サーバと監視対象システムのネットワークが切断状態または、FirewallにおいてSSHで使用するポート(22番)が遮断されている。

注意事項

- ・ インストールレス導入支援コマンドは、同時に複数実行しないでください。
- ・ 監視サーバと監視対象システムのSSH接続チェックでは、監視対象システムに対して、SSH接続でコマンド実行して応答の確認を行います。監視対象システムが無応答の場合(監視対象システムが電源切断状態、監視対象システム上でSSHサービスが起動していないなど)、応答待ちのタイムアウト検出に時間がかかる場合があります。
 - 監視対象システムが無応答時の1システムあたりの応答待ち時間：約30秒

2.2 アンインストール

導入支援ツールがインストールされているフォルダごと削除してください。

第3章 リファレンス

導入支援ツールで使用するコマンド、ファイル、メッセージについて説明します。

3.1 mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)

機能説明

本コマンドは、インストールレス型エージェント監視機能をSSH環境で使用する場合に必要となる設定を対話形式で行います。

本コマンドを起動すると“インストールレス型エージェント監視導入支援メニュー”が表示され、次の3つの支援機能を選択できます。

1. SSH公開鍵の作成 (監視サーバ)

SSH公開鍵の作成機能で行われる処理は次のとおりです。

— アカウントの権限確認

本コマンドを起動したアカウントの権限を確認します。

確認方法:

(Windowsの場合)

次のグループに所属していること

- Administratorsグループ、かつ
- DmAdminグループ (動作OSがWindows2008以降の場合のみ)

(UNIXの場合)

- rootアカウントであること

— Cygwinの導入確認

(Windowsの場合)

CygwinをベースとしたOpenSSHおよび関連パッケージが導入されていることを確認します。

確認対象は次のとおりです。

- Cygwin v1.7以降がインストールされていること
- Cygwinのcygrunsrvパッケージが導入されていること
- Cygwinのopensslパッケージが導入されていること

(Unixの場合)

確認を行いません。

— SSHクライアントの有無

SSH接続で利用するSSHクライアント(SSH V2.0以上)が存在することを確認します。

— SSH公開鍵の生成

監視対象システムのSSH接続アカウントに登録するSSH公開鍵を生成します。

2. SSH公開鍵の設定 (監視対象システム)

SSH公開鍵の設定機能で行われる処理は次のとおりです。

— アカウントの権限確認

本コマンドを起動したアカウントの権限を確認します。

確認方法:

(Windowsの場合)

以下の条件を満たすこと

- Administratorアカウントであること、もしくは
- Administratorsグループであること (※かつEvent Log Readerグループであること)
※ 動作OSがWindows Vista/Windows2008以降の場合のみ

(UNIXの場合)

- rootアカウントであること

— SSHサービスの起動確認

SSHサービスのプロセスの有無を調査し、SSHサービスが起動されていることを確認します。

— SSH公開鍵の登録

SSH公開鍵を読み込み、SSH接続アカウントのauthorized_keysに追加します。監視サーバから監視対象システムに複製したSSH公開鍵を登録時に指定してください。

3. SSH接続の確認 (監視サーバ)

SSH接続の確認機能で行われる処理は次のとおりです。

— アカウントの権限確認

本コマンドを起動したアカウントの権限を確認します。

確認方法:

(Windowsの場合)

次のグループに所属していること

- Administratorsグループ、かつ
- DmAdminグループ (動作OSがWindows2008以降の場合のみ)

(UNIXの場合)

- rootアカウントであること

— 監視対象システムの名前解決確認

指定した監視対象システムのホスト名の名前解決が正常に行えることを確認します。

— SSH接続の試行

SSHクライアントを起動し、指定した監視対象システムに接続し、正常な応答があることを確認します。

記述形式

| | |
|------------|------|
| mpalssetup | [-h] |
|------------|------|

オプション

-h:

コマンドの使用方法が表示されます。

復帰値

0:正常終了

1:異常終了

参照

[監視対象システム接続情報ファイル](#)

コマンド格納場所

| | |
|---------|------------------------------------|
| Windows | 導入支援ツールインストールディレクトリ¥mpalssetup¥bin |
| UNIX | 導入支援ツールインストールディレクトリ/mpalssetup/bin |

使用例1

導入支援ツールを起動します。

```
////////////////////////////////////  
  
インストールレス型エージェント 監視導入支援メニュー  
  
////////////////////////////////////  
  
1. 監視サーバでのSSH公開鍵の作成  
2. 監視対象システムでのSSH公開鍵の設定  
3. 監視サーバでのSSH接続確認  
  
メニューを選択してください。(1, 2, 3, q)  
  
-->
```

使用例2

コマンドの使用方法を表示します。

```
C:¥mpalssetup¥mpalssetup¥bin>mpalssetup -h  
  
Usage: mpalssetup [-h]
```

出力形式1

SSH公開鍵の作成では、確認結果が標準出力に出力されます。

Windowsの場合

```
<<環境設定の実行結果>>  
  
アカウント名 : Administrator  
ローカルグループ名 : Administrators  
グローバルグループ名 : なし  
  
SSH鍵タイプ : RSA (SSH2)  
  
SSH公開鍵のパス : C:¥mpalssetup¥mpalssetup¥ssh¥TestHost_id_rsa.pub  
  
監視サーバのSSH環境設定が完了しました。
```

UNIXの場合

```
<<環境設定の実行結果>>  
  
アカウント名 : root
```

SSH鍵タイプ : RSA (SSH2)

SSH公開鍵のパス : /mpalssetup/mpalssetup/ssh/TestHost_id_rsa.pub

監視サーバのSSH環境設定が完了しました。

出力形式2

SSH公開鍵の設定では、確認結果が標準出力に出力されます。

Windowsの場合

<<環境設定の実行結果>

アカウント名 : TestUser

ローカルグループ名 : Users

グローバルグループ名 : なし

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : C:\mpalssetup\mpalssetup\def\syslist.def

ホスト名 : host1

デプロイ先のパス : C:\mpals_deploy

監視サーバのSSH環境設定が完了しました。

UNIXの場合

<<環境設定の実行結果>

アカウント名 : TestUser

監視対象システム接続情報ファイルの絶対パス : C:\mpalssetup\mpalssetup\def\syslist.def

ホスト名 : host1

デプロイ先のパス : C:\mpals_deploy

監視サーバのSSH環境設定が完了しました。

出力形式3

SSH接続の確認では、確認結果が標準出力に出力されます。

== SSH接続の応答チェック開始==

host1, Administrator, 接続成功

Host2, TestUser2, 接続失敗, ホスト名の名前解決ができません。

Host3, TestUser3, 接続失敗, 監視対象システムに接続できません。

Host4, TestUser4, 接続失敗, 監視対象システムから応答がありません。

== SSH接続の応答チェック終了==

3.2 インストールレス型エージェント監視導入支援コマンドの入力ファイル

導入支援ツールを実行時に使用する入力ファイルについて説明します。

監視対象システム接続情報ファイル

ファイル名

syslist.def

使用用途

監視対象システムの接続情報を記述するファイルです。本ファイルの内容は、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)で接続環境を設定する際に使用します。

格納場所

| | |
|---------|--|
| Windows | 導入支援ツールインストールディレクトリ¥mpalssetup¥def¥syslist.def |
| UNIX | 導入支援ツールインストールディレクトリ/mpalssetup/def/syslist.def |

ファイル形式

CSV形式です。

1つの監視対象システムの情報は、1行にASCIIコードで記述します。

CSV形式の詳細は、以下のとおりです。

| 列番号 | タイトル | 定義表示形式 | | | 備考 |
|-----|-----------|---|-------|--|------------|
| | | 説明 | 最大長 | 使用可能な文字種 | |
| 1 | ホスト名 | 監視対象システムのホスト名 ホスト名は重複しないようにしてください。 | 256文字 | 半角英数字、"-" | 必須 |
| 2 | SSHのアカウント | 監視対象システムへSSH接続する場合に使用するログインアカウント | 64文字 | 半角英数字、"-","_" | 必須 |
| 3 | デプロイ先のパス | デプロイ方式により被監視システムに配付するSystemwalker Centric Managerのエージェント機能のプログラム格納先 | 64文字 | 半角英数字、"-","_" ドライブレターの区切り文字":" パスの区切り文字"¥","/" | 任意 フルパス |

使用例

| |
|---|
| host1, Administrator, C:¥deploy host2, TestUser, C:¥deploy |
|---|

3.3 インストールレス型エージェント監視導入支援コマンドの出力ファイル

導入支援ツールを実行した後に、出力されるファイルについて説明します。

SSH公開鍵ファイル

ファイル名

監視サーバのホスト名_id_rsa.pub (SSH鍵タイプに“RSA(SSH2)”を選択した場合)

監視サーバのホスト名_id_dsa.pub (SSH鍵タイプに“DSA(SSH2)”を選択した場合)

使用用途

監視対象システムにSSH公開鍵を設定するために使用するSSH公開鍵ファイルです。本ファイルは、監視サーバ側で導入支援ツールを使用することにより作成します。

格納場所

| | |
|---------|--|
| Windows | 導入支援ツールインストールディレクトリ¥mpalssetup¥ssh¥監視サーバのホスト名_id_rsa.pub |
| | 導入支援ツールインストールディレクトリ¥mpalssetup¥ssh¥監視サーバのホスト名_id_dsa.pub |
| UNIX | 導入支援ツールインストールディレクトリ/mpalssetup/ssh/監視サーバのホスト名_id_rsa.pub |
| | 導入支援ツールインストールディレクトリ/mpalssetup/ssh/監視サーバのホスト名_id_dsa.pub |

動作状況ログファイル

ファイル名

mpalssetup_trace.log

mpalssetup_trace.log.bak

使用用途

導入支援ツールの動作状況を出力するログファイルです。

導入支援ツールの異常時には、“mpalssetupで始まるメッセージ”に従い対処してください。問題が解決できない場合は、“[動作状況ログファイル](#)”を富士通技術員に送付し、調査依頼を行ってください。

格納場所

| | |
|---------|-------------------|
| Windows | 環境変数TMPに定義されているパス |
| UNIX | /tmp |

3.4 mpalssetupで始まるメッセージ

インストールレス導入支援コマンドを実行するマシンのOSによって、以下の表を参考にメッセージ種別を確認してください。

| OS | メッセージ種別ごとの出力形式 | | |
|---------|----------------|----|----|
| Windows | エラー | 警告 | 情報 |
| UNIX | | | |

以下は、Windowsを導入しているシステム上で出力されたメッセージについて説明しています。

mpalssetup: エラー: 01000: 起動アカウントの権限が不足しています。[%1] [%2]

mpalssetup: ERROR: 01000: The startup account does not have sufficient privileges. (%1) (%2)

【メッセージの意味】

導入支援ツールを起動したアカウントに、インストールレス型エージェント監視の起動アカウントと同等の権限が与えられていません。

【パラメタの意味】

%1: 導入支援ツールを起動したアカウント名

%2: 導入支援ツールを起動したアカウントが所属するグループ名

【対処方法】

以下の点を確認し、異常となる原因を取り除いてください。

- 導入支援ツールを起動したアカウントの権限が不足していた場合

アカウントに適切な権限を付与した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

必要となる権限についてはSystemwalker Centric Manager 導入手引書“インストールレス型エージェントで監視する場合”を参照してください。

- インストールレス型エージェント監視の起動アカウントでmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を実行しなかった場合

インストールレス型エージェント監視の起動アカウントでログオンし直した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

mpalssetup: エラー: 01001: SSH接続アカウントの権限が不足しています。[%1] [%2]

mpalssetup: ERROR: 01001: The SSH connection account does not have sufficient privileges. (%1) (%2)

【メッセージの意味】

導入支援ツールを起動したアカウントに、SSH接続アカウントと同等の権限が与えられていません。

【パラメタの意味】

%1: 導入支援ツールを起動したアカウント名

%2: 導入支援ツールを起動したアカウントが所属するグループ名

【対処方法】

以下の点を確認し、異常となる原因を取り除いてください。

1. 導入支援ツールを起動したアカウントの権限が不足していた場合

アカウントに適切な権限を付与した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

必要となる権限についてはSystemwalker Centric Manager 導入手引書“インストールレス型エージェントで監視する場合”を参照してください。

2. SSH接続アカウントでmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を実行しなかった場合

SSH接続アカウントでログオンし直した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

mpalssetup: エラー: 01002: SSH接続アカウントで起動されていません。現在のアカウント名=[%1] SSH接続アカウント名=[%2]

mpalssetup: ERROR: 01002: The account that is currently logged in has not been started with the SSH connection account. Current account=(%1) SSH connection account=(%2)

【メッセージの意味】

導入支援ツールを起動したアカウントと、監視対象システム接続情報ファイルで定義したアカウント名が一致しません。

【パラメタの意味】

%1: 現在のアカウント名

%2: 監視対象システム接続情報ファイルのアカウント名

【対処方法】

以下の点を確認し、異常となる原因を取り除いてください。

1. 監視対象システム接続情報ファイルに記載したSSH接続アカウント名が誤っていた場合
監視対象システム接続情報ファイルを正しく修正した後にmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。
2. SSH接続アカウントでmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を実行しなかった場合
SSH接続アカウントでログオンし直した後にmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

mpalssetup: エラー: 01003: SSH接続に必要な設定がされていません。[%1]

mpalssetup: ERROR: 01003: The settings required for SSH connections have not been made. (%1)

【メッセージの意味】

SSH接続の環境設定に不備があります。

【パラメタの意味】

%1: 異常が発生した原因

- Cygwin v1.7 以降がインストールされていません。
- Cygwin上に必要なパッケージがインストールされていません。
- SSHサービスが起動していません。

【対処方法】

以下の点を確認し、異常となる原因を取り除いてください。

1. %1パラメタが「Cygwin v1.7 以降がインストールされていません」の場合
システムにCygwin v1.7がインストールされていない、もしくはv1.7より古いCygwinがインストールされています。v1.7 以降のCygwinをインストールした後に、mpalssetupを再実行してください。
2. %1パラメタが「Cygwin上に必要なパッケージがインストールされていません。」の場合
1.2 動作環境に提示した必須パッケージがインストールされていません。必須パッケージをインストールした後に、mpalssetupを再実行してください。
3. %1パラメタが「SSHサービスが起動していません。」の場合
次のいずれかの原因である可能性があります。
 - “CYGWIN sshd”サービスが存在しない場合、2.2.2 環境構築前の確認に示した手順で“CYGWIN sshd”サービスを導入した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。
 - “CYGWIN sshd”サービスが停止している場合、“CYGWIN sshd”サービスを起動した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

mpalssetup: エラー: 01004: SSH公開鍵の格納ファイルに公開鍵を追加できません。[%1] [%2]

mpalssetup: ERROR: 01004: Unable to add a public key to the SSH public key storage file. (%1) (%2)

【メッセージの意味】

SSH公開鍵格納ファイルにSSHの公開鍵を追加する際に異常が発生しました。SSH公開鍵格納ファイルのパーミッション設定を確認してください。

【パラメタの意味】

- %1: ファイル名
%2: 異常が発生した原因

【対処方法】

%2に示された原因を解決した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

mpalssetup: エラー: 01005: SSH公開鍵を作成できません。[%1]

mpalssetup: ERROR: 01005: Unable to create a private key and public key for SSH. (%1)

【メッセージの意味】

SSH公開鍵の作成が失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: 異常が発生した原因

- SSH公開鍵の格納先ディレクトリのパスが存在しません。
- SSH公開鍵が見つかりません。
- SSH公開鍵の複写に失敗しました。

【対処方法】

1. %1パラメタが「SSH公開鍵の格納先ディレクトリのパスが存在しません。」の場合

(Windowsの場合)

Cygwinのセットアップ環境が壊れている可能性があります。Cygwinを再インストールした後にmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

(Unixの場合)

"/.ssh"ディレクトリが存在することを確認してください。また"/.ssh"ディレクトリにアクセスする権限を持つことを確認してください。原因を取り除いた後、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

2. SSH公開鍵が見つかりません。

画面に出力されたメッセージもしくはトレースログに出力されたメッセージを確認し、対処してください。

もしくは、Cygwinのセットアップ環境が壊れている可能性があります。Cygwinを再インストールした後にmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

3. SSH公開鍵の複写に失敗しました。

SSH公開鍵の出力先(SSH情報)が書き込み不可なディスク(CDROMなど)である場合は、導入支援ツールを書き込み可能なディスクにインストールした後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

または、画面に出力されたメッセージもしくはトレースログに出力されたメッセージを確認し、対処してください。

mpalssetup: エラー: 01006: 監視対象システム接続情報ファイルの読み込みに失敗しました。

mpalssetup: ERROR: 01006: Failed to read the monitored system connection information file.

【メッセージの意味】

監視対象システム接続情報ファイルの読み込みに失敗しました。失敗する原因として、以下があります。

- ファイルが存在しない。
- ファイルのアクセス権に読み込み許可がない。

【対処方法】

以下の対処を行った後にmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

- ファイルの存在を確認し、存在しない場合、ファイルを新規作成する。
- ファイルのアクセス権に読み込み許可をつける。

mpalssetup: エラー: 01007: 監視対象システム接続情報ファイルの書式に誤りがあります。[%1] [%2] [%3]

mpalssetup: ERROR: 01007: There is a problem with the format of the monitored system connection information file. (%1) (%2) (%3)

【メッセージの意味】

監視対象システム接続情報ファイルの書式に誤りがあり、読み込みが失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: エラー内容

%2: 誤りを検出した行数

%3: 不正な値

【対処方法】

監視対象システム接続情報ファイルに従い、ファイル書式を修正した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

mpalssetup: エラー: 01008: 監視対象システム接続情報ファイルの書式に誤りがあります。[%1] [%2]

mpalssetup: ERROR: 01008: There is a problem with the format of the monitored system connection information file. (%1) (%2)

【メッセージの意味】

監視対象システム接続情報ファイルの書式に誤りがあり、読み込みが失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: エラー内容

%2: 誤りを検出した行数

【対処方法】

監視対象システム接続情報ファイルに従い、ファイル書式を修正した後に、mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

mpalssetup: エラー: 01009: SSH公開鍵ファイルの読み込みに失敗しました。

mpalssetup: ERROR: 01009: Failed to read the public key for SSH.

【メッセージの意味】

SSH公開鍵ファイルの読み込みに失敗しました。失敗する原因として、以下があります。

- ・ ファイルが存在しない。
- ・ ファイルのアクセス権に読み込み許可がない。

【対処方法】

以下の対処を行った後にmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

1. ファイルの存在を確認し、存在しない場合、監視サーバで作成したSSH公開鍵ファイルを配置する。
2. ファイルのアクセス権に読み込み許可をつける。

mpalssetup: エラー: 01010: SSH公開鍵格納ファイルの読み込みに失敗しました。

mpalssetup: ERROR: 01010: Failed to read the SSH public key storage file.

【メッセージの意味】

SSH公開鍵の格納ファイルの読み込みに失敗しました。失敗する原因として、以下があります。

- ・ ファイルのアクセス権に読み込み許可がない。

【対処方法】

以下の対処を行った後にmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

- ファイルのアクセス権に読み込み許可をつける。

mpalssetup: エラー: 01011: デプロイ先のパスの作成に失敗しました。

mpalssetup: ERROR: 01011: Unable to create a deployment destination path.

【メッセージの意味】

デプロイ先のディレクトリの作成が失敗しました。失敗する原因として、以下があります。

- 監視対象システム接続情報ファイルのデプロイ先のパスに指定したディレクトリに書き込み許可がない。

【対処方法】

以下の対処を行った後にmpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

1. 監視対象システム接続情報ファイルで指定したデプロイ先のパスを確認し、誤りがあった場合は、修正してください。
2. 監視対象システム接続情報ファイルで指定したデプロイ先のパスに対して書き込み権限があることを確認し、ない場合は権限を与えてください。

mpalssetup: エラー: 01012: 内部動作異常が発生しました。

mpalssetup: ERROR: 01012: Internal error occurred.

【メッセージの意味】

mpalssetup(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)の処理で、内部動作異常が発生しました。

【対処方法】

“動作状況ログファイル”を富士通技術員に送付し、調査依頼を行ってください。

mpalssetup: エラー: 01013: サポート対象外のOSです。

mpalssetup: ERROR: 01013: This operating system is not supported.

【メッセージの意味】

インストール型エージェント監視導入支援ツールの動作対象外のOSです。

【対処方法】

サポート対象のOSでインストール型エージェント監視導入支援ツールを実行してください。

mpalssetup: エラー: 01014: 不正な文字列があります。[%1] [%2]

mpalssetup: ERROR: 01014: Invalid character string. [%1] [%2]

【メッセージの意味】

インストール型エージェント監視導入支援で扱うことができない文字列があります。

【パラメタの意味】

%1: 不正な文字列を検出した場所

%2: 不正な文字列を含む値

【対処方法】

以下の点を確認し、異常となる原因を取り除いてください。

1. %1パラメタが「インストール先ディレクトリ」の場合

導入支援ツールを半角英数字または"-","_"のみを含むパス (ただし、ドライブレターを区切る":"やパスの区切り文字"¥", "/"は含んでもよい。)にインストールした後に、**mpalssetup**(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。

2. %1パラメタが「アカウント名」の場合

ログイン中のアカウント名を確認してください。半角英数字または"-","_"のみを含むアカウント名でログインした後に、**mpalssetup**(インストールレス型エージェント監視導入支援コマンド)を再実行してください。